

第6章基本施策の具体的取り組み

Ⅰ スポーツ・運動を通じた市民健康活動の推進

(1) 市民エンジョイ・ウォーキング事業

① ウォーキングの普及、推進

原文 宗像市スポーツサポートセンターにおいて、個人でウォーキング、ジョギング等の運動をしている人を支援するため、「宗像市ウォーキングマップ」等を活用した健康ウォーキング情報の提供やウォーキング等を活用した健康づくり教室、カウンセリング等の開催を行います。また、ウォーキングの習慣化に繋がるような情報の発信や誰もが気軽に活用したくなる携帯電話等のアプリケーションなどの紹介を行い、運動をする人が増加するような働きかけを行います。

現状 スポーツサポートセンターのHPにて市内ウォーキングマップの紹介をはじめとして、令和2年度からノルディックウォーキング体験教室の開催や健康課と連携し、ふくおか健康ポイントアプリを活用した「つながりヘルスケア」事業の推進をおこない、ふくおか健康ポイントアプリへの加入促進やアプリを活用したウォーキングの開催に努めています。

また、ウォーキングの習慣化に繋げる活動の1つとして、各地区でのウォーキング大会やウォーキング事業の開催のサポートをおこなっています。

習慣化につなげる活動として市委託事業で「スポーツ推進委員活動モデルウォーキング事業」を玄海地区のスポーツ推進委員2名に委託。玄海のびのびウォーキングと銘打って令和4年9月から令和5年3月までの期間で実施。第1回ウォーキングを実施済(参加者約25人)。11地区にも順次拡げていく予定。

さらに、ウォーキングの成果を発揮する場として、令和4年度より宗像市主催のウォーキング大会「イいさんウォーキング宗像大会」を開催しています。

課題 ウォーキングに対する目標に対して十分な活動ができなかった。

ウォーキングマップ・アプリの活用や普及・広報をどうやっていくか。

関係機関、関係課とうまく連携ができなかった

参考:

イいさんウォーキング参加者

	R4	R5
ショートコース	142人	125人
ロングコース	85人	111人
計	227人	236人

② 市民ウォーキング大会等の情報提供やコース整備の検討

原文 日頃、ウォーキングを実施している人が成果を発表する場として、市内及び近隣自治体で開催されているウォーキング大会を紹介するとともに、市民に対しても、市内にあるウォーキングコースを利用してもらえるように情報提供を行います。

また、コミュニティ内で行われている歩こう会などと連携し、個人の体力に応じた「距離別」

や「ノルディックウォーキング」等の新たなウォーキングコースが整備できないか検討します。
現状 イイさんウォーキングと南郷ぐるっと健やかウォークの周知や情報提供をおこなっている。

日の里地区の聖火リレーウォーキングコースの日の里周回コース整備を実施した。

課題 関係機関、関係団体と連携が不十分であった。

(2) 大学、企業、地域等との連携による市民の健康活動の促進

原文 地域住民が自分に合ったペースで楽しく、笑顔でウォーキングや体操等のスポーツ・運動を実践する健康づくり活動を進めていくため、民間のスポーツ施設やコミュニティ内で行われている事業の情報を集約し、各コミュニティや各種団体に対し、情報提供していきます。

また、必要に応じ、宗像市スポーツサポートセンターと市内の大学や企業が連携した講座を地域等で開催し、より専門的な視点から市民の健康づくりを推進していきます。

現状 各地区のコミュニティ・センターや公民館等で開催されている健康づくり・運動教室の情報の集約や市スポーツ協会加盟の単位協会に対して、傘下のスポーツクラブのHPやSNS等による部員の募集状況の調査を行い、スポーツサポートセンターのHPにて紹介をした。

市内の企業である(有)エイコーウェルと連携し、自宅でも取り組めるトレーニング動画を作成し宗像市公式 Youtube にて公開や体力測定や健康教室を開催した。

市主催のウォーキング大会にて新生堂薬局、第一生命、明治安田生命と連携して、骨密度やインボディ、血管年齢等の健康測定等を行った。

市内大学と連携しての講座については、実施できなかった。

課題 関係機関、関係団体と連携が不十分であった。

(3) 市全域を対象とした総合型地域スポーツクラブの設立・運営

原文 市全域を対象とした総合型地域スポーツクラブの立ち上げについては、国のスポーツ推進計画に基づく総合型地域スポーツクラブの質的充実に関する取り組みを注視しながら、調査研究を続けていきます

現状 南郷地区コミュニティ内で活動する南の郷クラブの活動を支援し文化スポーツ課職員がアドバイザーとして南の郷クラブの委員会へ参加し、情報提供等を通して活動を支援している。

課題 指導者の確保や会員数の確保が大きな課題である。

2 スポーツ・運動を通じたコミュニティ活動の活発化

(1) コミュニティ・スポーツ交流事業

原文 平成29年度から全員が各コミュニティからの推薦となったスポーツ推進委員に対し、市が様々な研修会などを提供し、その研修内容を各コミュニティの中で情報共有することで、それぞれの特性に合わせた活動(スポーツ・運動を通じた健康づくり、世代間交流など)を活発に行える環境をつくっていきます。

現状 市が提供をおこなった研修は、以下のとおり

年度	研修内容
令和元年	ニュースポーツ研修(シャッフルボード、ユニカール) ニュースポーツ研修(キンボール、バグジー) ニュースポーツ研修(ディスコン、五目お手玉) ニュースポーツ研修(キャッチング・ザ・スティック、リング・キャッチ)
令和2年	スロージョギング研修 ニュースポーツ研修(アジャタ) 玄米ニギニギ体操研修
令和3年	スロージョギング普及員フォローアップ研修 福岡県中部地区スポーツ推進委員研修会 スロージョギング普及員フォローアップ研修 ニュースポーツ研修(ペタンク、カラーリング、ユニカール) ニュースポーツ研修(スカットボール、シャッフルボード)
令和4年	熱中対策アドバイザーセミナー わかめ体操 ニュースポーツ研修(ボッチャ) お手玉実技研修
令和5年度	中部地区スポーツ推進委員研修会(ニュースポーツ体験) 福岡県中堅スポーツ推進員研修会(ワンバウンドバレー) 大塚製薬 熱中症対策講座 玄米ニギニギ体操 シニアクラブ体力測定の研修(健康課) 救命救急 講座

各コミュニティからの依頼に応じて、研修内容の情報共有をおこなっている。

課題

(2) コミュニティ・スポーツ交流事業のサポート

原文 コミュニティ・スポーツ交流事業を実行するため、各コミュニティ内にあるスポーツ・運動を所管している部会等に対し、宗像市スポーツサポートセンターからの情報の提供や市からのニュースポーツの備品の貸出などを通じてソフト、ハードの両面から活動を支援します。

現状 スポーツ推進委員と連携して、市のニュースポーツ備品の貸出しなどを通じて各地区コミュニティのスポーツを通じた交流事業に対して支援をおこなっている。

課題

(3) コミュニティ対抗スポーツ大会の開催

原文 親善交流グラウンド・ゴルフ大会や親善交流お手玉大会など、既に各コミュニティの垣根を越えた市民交流を目的として開催されている「コミュニティ対抗スポーツ大会」に加え、更

なる市民交流の拡大が可能であるかを各コミュニティで構成された実行委員会にて協議します。

現状 例年、各地区の公民館活動部会長で構成する実行委員会を立ち上げてグラウンドゴルフ大会とお手玉大会を実施。令和2年度～4年度は新型コロナウイルスの影響により中止。令和5年度は、実行委員会での決定によりお手玉大会は廃止となり、グラウンドゴルフ大会のみの実施となった。

課題

参加人数：()内は総数に含む子どもの人数

年度	H26	H27	H28	H29	H30
GG 大会参加者数	301	260 (30)	243 (27)	258 (23)	259 (26)
お手玉大会	150 (8)	243 (22)	236 (14)	192 (13)	162 (12)
	R1	R2	R3	R4	R5
	277 (24)	中止	中止	中止	177 (10)
	136 (6)	中止	中止	中止	廃止

3 子どものスポーツ機会の充実

(1) スマイルキッズプログラム

① 幼児期を対象とした支援

原文 保護者や保育者に幼児期の運動活動や体力づくりの必要性を十分に理解してもらうため、情報提供や親子で一緒に楽しく体を動かしながら健全な心身の発達を促すプログラム、コーディネーショントレーニング^{※16}体験会など、運動プログラムのメニューを提供します。

現状 宗像ユリックス・アクアドームにて、未就学児とその親を対象とした「親子プール教室」を実施した。(令和2年度は新型コロナウイルスの影響により未実施) 今後も継続していく事業の一つとして確立した。

また、サニックススポーツ振興財団と連携して、幼児を対象にしたタグラグビー教室を開催した。

幼稚園、保育園を訪問しラグビー教室を実施。園長会へ議案の提出、各幼稚園、保育園の希望調査とりまとめを実施した。

課題

② 小学生の体力向上支援

原文 小学校には、今後も学校の要望に応じ、全ての子どもが楽しく運動ができるように陸上教室やマット運動などを指導する専門の指導員を派遣していきます。

また、子どもたちがスポーツの楽しさや効果を実感し、自ら進んでスポーツに親しむことができるよう、海洋性スポーツなどの体験型のスポーツ事業にも取り組んでいます。

宗像市スポーツサポートセンターでは、スポーツ推進委員、大学や民間のスポーツ指導

者らと連携し、様々な角度から児童の体力向上を目的とした事業を展開します。

現状 平成27年に自由ヶ丘南小学校の5、6年生を対象とした体操教室をモデル事業としてスタートし平成29年度から令和4年度までは、学校側からの要請もあり、小学3年生の児童を対象に、民間体操クラブ(Belle 体操スクール)によるマット運動の指導を実施した。

令和5年度からは、「指導のノウハウは継承されていること」、「小学校の体育授業への支援が目的になっていること」、「教室が本格運用し、5年目であること」から取り組みは終了となった。

小学5年生の児童を対象に、勝浦浜海洋スポーツセンターにて海洋性スポーツ体験授業を実施。

平成29年度から宗像中央公園ゲートボール場にて民間陸上クラブ(アローザル)による「速く走れるかけっこ教室」を実施している。吉武小学校をモデル事業からスタートし、令和元年から本格運用を行った。今後は、「小学校の体育授業への支援が目的になっていること」、「教室が本格運用し、5年目であること」から取り組み終了の方向で動いている。

オリンピックレガシーの取り組みとして、小学4・5年生の女子を対象に女子ラグビーの育成普及を図ることを目的にトライ MUNAKATA を3月実施予定(女子ラグビー教室の開催)であったが、新型コロナウイルスの影響により中止し、サニックススポーツ振興財団に委託しガールズラグビースクールを実施。

サニックススポーツ振興財団等と連携して、小学4年生を対象にタグラグビー教室を3~4回開催している。

小学校の新体カテストにスポーツ推進委員を派遣している。

課題

③ 中学校運動部活動の支援

原文 宗像市スポーツサポートセンターは、部活動の指導者に関し、各種スポーツの専門性のある指導員を中学校に紹介できるように、地域人材の発掘や登録、また、学校とのコーディネートを行っていきます。

現状 冬季休暇中に市内中学校のうち希望する部活動に講師を派遣し、SAQ(スピード、アジリティ、クイックネス)トレーニングやコンディショニングトレーニングなどの指導を実施。(計6コマ、163人参加)

12月27日に河東中学校などの指導を対象にスポーツ部活動指導者コーチングモデル事業を実施(テーマ:体幹と姿勢、身体の連動。参加者10人)

市内小中学校の部活動・クラブ活動の実態調査を実施。

令和4年度福岡県地域運動部活動推進事業を受け、野球とバスケットボールをモデル競技として実践研究を行う。

宗像市部活動改革検討協議会とワーキンググループを立ち上げ、実践研究を行った。検討協議会会議は2回実施(5/19、8/17)、ワーキンググループ会議は4回実施

(6/23、7/28、9/27、11/18)。

平日の運動活動支援(9月補正予算):平日の放課後に中学校部活動にトレーナーを派遣し、運動部活動加入者等を対象とした体幹、コンディショニング、フィジカルなどの基礎トレーニング(S&C)を実施。実施校は自由ヶ丘中学校、大島中学校の2校。

国の実証事業を活用し、競技種目は剣道、柔道、ソフトボール等として、受皿クラブの起ち上げを行う。

部活動コーディネーター配置事業として、中学校との連絡調整及び文化・スポーツ関係団体、学園内の住民、民間企業、大学等と連携し、支援・協力を得ながら休日に削減される部活動に代わる教室(スクール)を競技種目毎に開催する。

実証事業を活用し、野球2、バスケットボール2、バレーボール1の計5クラブの起ち上げ支援を行った。

運動部活動全9種目を対象としたスキルアップ教室「おなかたアカデミー教室」を株式会社グローバルアリーナとの委託契約で実施。

課題

④ 社会体育等における活動の支援

原文 子どもたちのスポーツ・運動に関する興味・関心を高めるため、多項目体験プログラムの提供、トップアスリートとの交流、学童スポーツなどの社会体育指導者への支援を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ土台づくりを行います。

また、更なる競技力向上やトップアスリートを目指す選手にはその手助けとして福岡県タレント発掘事業^{※17}などを積極的に活用し、その活動の支援を行います。

現状 バドミントン育成教室及びソフトテニス育成教室を南の郷クラブで実施している。

宗像市が全国大会等参加費用補助制度を実施している。

令和5年2月に石川佳純サックスツアーの誘致、令和5年度の事業として、企業版ふるさと納税を活用し、アビスパ福岡とのトップアスリート交流事業を実施等、少しずつトップアスリートの交流の機会を増やすことはできた。

福岡県タレント発掘事業などの活用は、できていない。

課題 全国大会等参加費用補助制度についても本当に必要な方に必要な補助ができているのか不明。

(2) スポーツ指導者体制の整備

① スポーツ指導者の育成及び活動支援

原文 学童スポーツクラブの指導者、中学校運動部活動の部活動指導員や外部指導者(地域指導者)等のスポーツ指導者を対象として、スポーツ医科学に基づいた子どもの発達年齢に応じた適正な指導方法やコーディネーショントレーニングなどの運動プログラムのメニューづくりの方法、オーバーワークと不適切なトレーニングによるスポーツ障害を発生させないための指導等を共通認識するための講習会・セミナーなどの学びの場を提供します。

現状 令和4年12月に河東中学校の運動部活動の指導者を対象に「中学校スポーツ部活動指導者コーチングモデル事業」を「体幹と姿勢、身体の連動」をテーマに実施した。

課題 子どもたち指導をするには、年代に関わらず競技ごとにそれぞれ資格が必要となったり、特に中体連に関わるためには指導者資格のみならず審判資格が必要な場合が発生すると思うので資格の獲得・更新のためのバックアップの検討も必要。

オーバーワークと不適切なトレーニングによるスポーツ障がいが発生させないための指導等を共通認識するための講習会・セミナー等の学びの場の提供を検討している。

② 異種目間のスポーツ指導者のネットワーク化

原文 子どもが同時期に複数種目を実施することが運動能力向上につながるという「医科学的な研究に基づいた効果」や各種スポーツにおける指導方法などを各種スポーツ指導者間で共通認識するためのネットワーク構築方法について、調査研究を行います。

現状 講習会等を通じ異種目間の情報交換を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により未実施である。

課題

③ 小中一貫教育による体力向上に向けた教職員の共通理解

原文 義務教育9年間で切れ目なく、発達段階に応じて体系的にバランスよく体力向上を図るため、各学校が各学園(中学校区)と連携して作成している体力向上プランの実践を引き続き促進します。

現状 アクシオン福岡の運動能力評価表を活用し、校長会・保健体育研究会等で学園間の共通理解を図っている。

課題

4 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

(1) スポーツ未実施者等のライフステージに応じたスポーツ・運動プログラムの開発・実施

① 親子や家族がともに参加できるスポーツ・運動プログラム

原文 宗像市スポーツサポートセンターにおいて、親子や家族がともに参加できるスポーツ・運動教室を開催し、スポーツ未実施者やスポーツが苦手な人に対するスポーツ実施のきっかけづくりとしてのスポーツ・運動プログラムを提供します。

現状 宗像市スポーツサポートセンターにて親子を対象としたスポーツイベントを実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により実施できなかったため、宗像市スポーツサポートセンターHPにて、自宅で親子でも取り組めるような運動プログラムを紹介した。宗像ユリックス・アクアドームにて、未就学児とその親を対象にした親子プール教室を開催した。

課題

② 20代、30代が参加できるスポーツ・運動プログラム

原文 宗像市スポーツサポートセンターにおいて、スポーツ・運動離れが進んでいる若者に対

し、きっかけづくりとなるようなスポーツ・運動プログラムを提供します。

現状 宗像市スポーツサポートセンターにて、平日夜間の運動プログラム(ボクササイズ)やピラティスやストレッチポール教室を土曜日に実施。ワンコインで参加などの工夫はしているものの参加者50~70代となっており、固定化されている。

課題 若い世代をターゲットとし事業を実施しているが、参加者は50~70代となっている。
参加者の固定化。

③全世代が参加できるウォーキング大会等の情報提供

原文 ウォーキングは、個人の生活スタイルに合わせて行うことができることから、市民の健康づくりやスポーツ観光にもつながるウォーキング大会の開催情報を提供し、ウォーキング人口の増加を図ります。また、必要に応じて、各世代のニーズに応じたスポーツ・運動イベント等の開催情報を提供します。

現状 宗像市スポーツサポートセンターHPとふくおか健康ポイントアプリのお知らせ機能を使い、ウォーキング情報を提供。(ふくおか健康ポイントアプリ登録者 1,834人 R4.2末時点)その他のSNS等を活用しての開催情報の提供できていない。

課題

(2)コミュニティにおけるスポーツ・運動活動、健康づくりの支援

原文 各地区のコミュニティが総合型地域スポーツクラブやスポーツ・運動を所管している部会等を通じ、スポーツ・運動教室を行う際は、必要に応じて宗像市スポーツサポートセンターから講師を派遣し、各地域単位で行うスポーツ・運動活動や健康づくりを支援します。また、総合型地域スポーツクラブの立ち上げについては、市で調査研究を続けていき、必要に応じ、コミュニティに対し情報提供を行います。

加えて、各コミュニティがそれぞれの特性に合わせた活動(スポーツ・運動を通じた健康づくり、世代間交流)を活発に行えるような環境をつくっていけるように、スポーツ推進委員に対し、研修会を実施するなどの支援も行います。

現状 南の郷クラブによる教室の実施。(R4.10月現在)118人(大人44人、子ども74人)教室数9(大人6、子ども3)

各地区コミュニティにスポーツ推進委員を派遣した。(派遣スポーツ推進委員数52人 延べ参加者数587人)

以上の2つの活動が中心となっており、活動の拡充に対しての支援をおこなっている。

課題 指導員等の高齢化。

(3)障がい者のスポーツ・運動活動の支援

①障がい者スポーツに触れる機会の提供

原文 すべての市民対象に、パラバドミントンなどの障がい者スポーツに触れ合える機会を提供するとともに、障がい者福祉施設の関係者や保護者、介助者などを対象とした障がい者スポーツに関する研修会等で、障がい者スポーツ実施の意義を理解し、障がい者スポーツ実施者をサポートできるように啓発を行います。

現状 民間の団体等の協力を得て、パラバドミントン教室、パラバドミントン体験会とパラ水泳教室を実施。また、宗像市が東京パラリンピックのレガシーとしてパラバドミントンの日本代表選手団を受け入れ、さらにはサポートシティにもなっている。

障がい者スポーツ用品(ボッチャ等)を市で保有し、自治会やコミュニティへの貸出を実施している。

課題 パラバドミントンの備品の調達など

気軽にできるスポーツの啓発の取組み

② 障がい者スポーツ等の情報の提供

原文 宗像市スポーツサポートセンターにおいて、障がい者スポーツに関する種目やそのルールなどの情報を収集し、必要に応じ、情報提供ができる仕組みを構築していきます。また、障がい者向けの運動活動についても情報提供や研修が行えるように、調査研究を行っていきます。

現状 宗像市スポーツサポートセンターにて障がい者スポーツに関する種目やそのルール等の情報を収集し、障がい者を対象としたスポーツ教室の参加者の募集を福祉政策課の協力を得ておこなった。

パラバドミントン、パラ水泳のチーム立ち上げに向けた取組みを行う中で、福岡県スポーツ協会&福岡県スポーツ振興センター(アクション福岡)と福岡県障がい者スポーツ協会(クローバープラザ)へのヒアリングをおこなった。

障がい者を対象にしたスポーツ教室の開催において、障害福祉サービス事業所、障害通所支援事業所、相談支援事業所及び障がい児相談支援事業所に対してメール配信をするなど、情報提供をおこなった。

課題

③ スポーツ・運動活動の支援

原文 宗像市スポーツサポートセンターにおいて、スポーツや運動活動を実施したい障がい者が活動場所などの必要な情報を得ることができるよう、福岡県障がい者スポーツ協会、近隣の市町村や各種団体などと連携できる仕組みを検討していきます。

現状 宗像市スポーツサポートセンターにて県や近隣市町村と連携し、スポーツや運動活動を実施したい障がい者に対し、HP等を通じて活動の場などの情報提供や宗像市障害者自立支援協議会に所属する障がい者施設に対して、障がい者のスポーツに関するアンケート調査をおこなった。

スポーツや運動活動を実施したい障がい者が活動場所などの必要な情報を得ることができるよう、福岡県障がい者スポーツ協会や各種団体などと連携できる仕組みを検討。

課題

5 宗像市スポーツサポートセンターを活用し、住民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備

(1) スポーツ資産の有効活用

① 宗像市スポーツサポートセンターでのスポーツ資産情報の集約

原文 市内にある大学や宗像市スポーツ協会、民間スポーツ施設、企業スポーツ団体等が保有する人材、施設・設備、ノウハウといった多種多様なスポーツ資産を今まで以上に有効活用するため、宗像市スポーツサポートセンターにて、市内のスポーツ資産情報の集約を行います。

現状 市内の学校、スポーツ関係団体などが保有する様々なスポーツ資産情報を収集し、市民に分かりやすく情報を発信できるよう、スポーツサポートセンターHPの改修に取り組んでいる。

HP を開設しているスポーツ協会やスポーツクラブ、スポーツジムのリンクを張り、スポーツ資産情報の集約を図った。宗像市スポーツサポートセンターの HP において集約したスポーツ資産情報を公開。

課題

② 宗像市スポーツサポートセンターの機能の充実

原文 宗像市スポーツサポートセンターの組織体制を拡充し、市内にあるスポーツ資産を幅広く活用できるように、スポーツ資産情報の発信や学校教育のサポートを含めたスポーツ全般に係るコーディネート機能を強化していきます。また、宗像市スポーツサポートセンターにて、市民のスポーツ・運動活動の実態把握を行っていきます。

現状 市民体育館のスポーツサポートセンターでの体カテストや健康教室、小学生を対象とした体操教室や陸上教室、海洋性スポーツ体験に加え、個人でウォーキングなどの運動をしている市民を支援する「つながりヘルスケア事業」を開始するなど、スポーツサポートセンターの機能の充実を図ってきた。

中学校の部活動改革の実践について研究を開始し、中学校部活動の地域移行における受皿づくりや休日の部活動に代わる教室（スクール）を競技種目毎に開催するなど、子どものスポーツ環境充実に向け、スポーツサポートセンターがコーディネーターとしての役割を果たし、現状は、GA がコーディネーターとしての役割を担い業務を行っている。

つながりヘルスケア事業を推進するに当たり、その担い手となるスポーツ推進委員のサポートを継続しておこなっている。

課題

③ 宗像市スポーツサポートセンターと宗像市スポーツ協会等との連携

原文 宗像市スポーツサポートセンターと「スポーツ、レクリエーションを通じて、スポーツ精神を養い市民の強健なる心身の発達、および豊かな人間性の醸成に努めること」を設置目的とした宗像市スポーツ協会とは、それぞれの役割分担のもと、住民が参画する地域スポーツ環境がより向上するように、連携、また、必要に応じて、一体となり、事業展開を行っていきます。

宗像市スポーツサポートセンターは、自らがコーディネーターとなり、宗像市スポーツ協

会をはじめ、学童スポーツクラブ、小・中学校、高校、大学、企業、民間スポーツ施設、スポーツ推進委員等のスポーツ関係団体・機関が一体となって地域スポーツ環境が向上できるように連携体制づくりの調査研究を行います。

現状 2023年度から開始となる「学校のはたらき方改革を踏まえた部活動改革」を受け、スポーツサポートセンターにおいて地域スポーツサイドから中学生の運動部活動の受皿づくりを進めるに当たり、市スポーツ協会との連携を図り、野球とバスケットボールにおける実践研究の取り組みを進めた。

宗像市スポーツ協会の40周年を記念して、宗像市スポーツサポートセンターが宗像市スポーツ協会と連携して、ウォーキング事業や市民親善ゴルフ大会、石川佳純47都道府県サンクスツアーを開催。

中学校部活動の地域移行に伴い、受皿クラブの起ち上げを行う際に、スポーツ協会や各单位協会と十分な調整や意向確認を行うなど、連携を図る。

課題 スポーツ推進の基盤づくり

④ スポーツ推進委員との連携強化

原文 平成29年度から全員が各コミュニティからの推薦となったスポーツ推進委員は、市主催事業の支援に加え、宗像市スポーツサポートセンターと地域のパイプ役の存在として、また、地域でのスポーツ・運動活動の先導者・コーディネーターとしての役割を担えるように、連携強化を図っていきます。

現状 定数 25人

各コミュニティから2人（赤間地区は3人）のスポーツ推進委員を配置。現在24人（任期2年の1年目）。

毎月1回の定例会の実施や小学校体力測定、プリンセス駅伝、グラウンド・ゴルフ大会、イイさんウォーキング等でスタッフとして市のイベントへの協力をいただいている。

各種研修会などに参加いただき、地域への派遣事業などに活用している。

課題 スポーツ推進の基盤づくり

⑤ 市内を本拠地とするトップチームの活用

原文 ジャパンラグビートップリーグの宗像サニックスブルースを「おらがまちのチーム」といったより身近な市民チームとするため、市民を挙げた応援や支援を行いながら、シティプロモーションの柱の一つとして活用していきます。トヨタ自動車九州陸上競技部についても、市民応援や支援を行っていきます。

現状 宗像サニックスブルースが本市のグローバルアリーナで開催するトップリーグに多くの方が訪れるとともに、ファンクラブや市民応援団の会員促進につながるようにシャトルバスを運行してきたが、令和4年にサニックスブルースが廃部となり、活動もおこなえなくなった。

トヨタ自動車九州陸上競技部については、市民を挙げた応援や支援を行えるよう、後援会加入促進や連携強化に努めている。

課題 トップスポーツチームと市民との交流

(2) トップスポーツ試合の地元観戦機会の提供(観る)

原文 ジャパンラグビートップリーグや全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会(プリンセス駅伝in宗像・福津)等、地元で開催されるトップスポーツ観戦案内を市の広報紙やホームページ、チラシ等による周知、地域や学校等との連携による周知により、市民応援者を増やします。

現状 ジャパンラグビートップリーグや全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会(プリンセス駅伝in宗像・福津)等のトップスポーツの観戦においては、市の広報紙やホームページ、チラシ等による周知、地域や学校等との連携による周知を実施した。

また、必要に応じて、市の SNS を活用した周知もおこなった。

応援者が増加したかの集計は、とれていない。

課題 スポーツ推進の基盤づくり

(3) スポーツボランティアの活用・充実(支える)

原文 多くの市民がスポーツを支える市民ボランティアとしてスポーツイベントに気軽に参加し、支える楽しさをより実感できるようスポーツ団体やコミュニティと連携するとともに、様々な媒体を活用した募集案内を行っていきます。

現状 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会のボランティア参加が主となっている。その他に令和4年度に開催した石川佳純 47 都道府県サックスツアーにおいて市卓球協会や市内中高生がボランティアで運営に参画していただいた。

課題 付加価値のある体験の機会づくり

(4) トップアスリートとの交流事業の実施(交わる)

原文 ラグビーでは、宗像サニックスブルースの市民向け交流イベント等を開催し、市民と選手の交流機会を提供します。また、地元の少年チームや高校を対象としたラグビークリニック等の開催に加えて、幅広い年齢層に対しての体験会を開催し、多くの市民のラグビー競技そのものへの関心を高めていきます。

また、選手やスタッフの地域行事等への参画を一層進めることで、市民との交流をさらに促進させます。陸上競技では、トヨタ自動車九州陸上競技部の選手とファンが直接触れ合うことができる陸上イベントの支援や地域での交流イベントの開催に向けたコーディネートなどを行い、市民との交流を図っていきます。

加えて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会へ向けたホストタウン交流等の取り組みに合わせて、トップアスリートや海外アスリートとの交流も図っていきます。

現状 令和4年度までは、サニックスブルースの選手・スタッフによる幼稚園・保育園ラグビー訪問教室を実施していたが、サニックスブルースが撤退したことにより令和5年度は実施はできなかった。

トヨタ自動車九州陸上競技部においては、小・中学生を対象としたランニングイベントでの選手による支援をおこなった。

また、トップアスリートとの交流として、令和4年度に石川佳純 47 都道府県サンクスツアーの実施、アビスパ福岡と、宗像応援デーおよび宗像スポーツフェスタの実施、カノアウレアーズ福岡と、むなかたアカデミー教室の特別教室としてバレーボール教室の実施をした。

令和5年度以降も既存の交流に加えてトップアスリートとの交流の機会を増やしていく方針。

課題 各種トップスポーツチームから、地域連携の提案をいただいている。この提案をどう生かすか。

6 スポーツ観光による地域経済活性化

(1) 全国・九州レベルのスポーツ大会の誘致・開催支援

原文 全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会（プリンセス駅伝in宗像・福津）をはじめとした全国の代表で競う実業団、インターカレッジ、インターハイスクールや九州地区の代表で競うブロック国体、各種小・中学生大会等の宿泊を伴う大会の誘致やグローバルアリーナ等民間による大会開催の支援を行います。宿泊を伴うスポーツ大会については、宿泊人数に応じた補助制度の導入を検討します。

現状 市が運営等に関わる宿泊を伴う大会は、プリンセス駅伝、ビーチラグビー大会、キッズセブンが挙げられる。

GA で開催される宿泊を伴う大会は、以下のとおり

開催時期	大会名
4月～5月	サニックスワールドドラグビーユース交流大会
9月	U-16 グローバルアリーナルーキーズカップ
10月	サニックスカップ U-17 国際ハンドボール交流大会
11月	サニックス CUP 国際新体操団体選手権
12月	サニックス旗福岡国際中学生柔道大会
1月	サニックスワールドドラグビーユース交流大会予選会 グローバルアリーナ小・中学生バドミントン大会
2月	サニックス CUP 男子新体操競演会 サニックス Open 新体操チーム選手権
3月	サニックス杯国際ユースサッカー大会 サニックス杯 U17女子サッカー大会

課題

(2) スポーツ合宿の誘致活動の支援

① 合宿・研修会の誘致活動の支援

原文 実業団、大学、高校、青少年スポーツクラブ等の「通常合宿」やスポーツ大会の「直前合宿」の誘致活動の支援を行います。また、スポーツ指導者、トレーナー、スポーツドクタ

一、審判等を対象とした宿泊を伴う各種研修会の誘致活動の支援を行います。

現状 日本ラグビー界で活動するマツダスカイアクティブズ広島、釜石シーウェイブスのキャンプ誘致活動の支援とフィジー女子ラグビー代表の合宿を実施した。

市の地域資源であるスポーツ施設等を活用し、「市民がトップスポーツを身近に観戦できるまち」「市民がトップアスリートと交流できるまち」が持続できるよう、トップアスリートのキャンプを本市に誘致する活動の支援を行う。

また、新たな海外や大学のスポーツクラブ等の合宿に係る誘致活動についても支援を行い、スポーツ観光による地域経済活性化に取り組んでいく方針である。

課題

② 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」のキャンプ地受入

原文 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして、柔道ブルガリア代表・7人制ラグビーロシア女子代表のキャンプの受入と市民交流を進めることで、スポーツ合宿受入に係る連携体制の整備を進めるとともに、市の認知度向上を目指します。

レガシーとして、ブルガリアとの国際交流やラグビー競技の普及啓発に取り組みます。

現状 新型コロナウイルスの影響で十分な動きはできなかったが、啓発活動としては、令和2年に日の里中にて聖火展示、自由ヶ丘南小学校6年生とともに、ブルガリアホストタウンの横連携事業を実施。

誘致活動としては、令和3年にロシア(ROC)7人制女子ラグビー選手団、ブルガリア柔道選手団の事前キャンプ受入れとブルガリア柔道選手団と市内小学校児童が授業の一環としてオンラインにて交流を実施。

レガシー事業としては、令和3年に市立学校21校で「心に残るレガシー巡回展示」、市立小中学校において、競技大会関連の品を巡回展示、ブルガリア音楽の聴食、ブルガリアのプロの演奏家から、音楽を提供してもらい、子どもたちがブルガリア料理の給食を食べ、音楽を聴き、ブルガリアの文化に触れる取組み、ブルガリアとのWEB会議を利用した交流(小学校4校)、ブルガリア交流事業を実施した。

令和4年には、小学生女子のラグビー教室開催もおこなった。

令和4年以降は、カザンラック民族舞踊団、ブルガリア・レフスキー新体操クラブとのホストタウン交流を継続しておこなっている。

課題

(3) 宿泊や市内周遊につながるスポーツ大会の開催・支援

原文 グローバルアリーナ等と連携し、宿泊を伴う広域スポーツ大会を開催します。またウォーキングイベントについては、JR九州ウォーキングや宗像市商工会青年部が主催する「おなかたウォーキング」等の民間主催のイベントとの連携や開催支援等を通じて、スポーツ大会を活用した市内周遊等の観光PRを進めていきます。

現状 グローバルアリーナを活用して、宿泊を伴う市主催のスポーツ大会は、おなかたキッズセブンラグビー大会のみで小学3、4年生が宿泊をおこなっている。

JR九州ウォーキングや宗像市商工会青年部が主催する「むなかたウォーキング」については、コロナ解禁後から宗像市が関わっていないので現状の把握から必要である。

現状、観光PRにつながる活動ができていないスポーツ大会は、プリンセス駅伝のみである。

課題 ラグビーやウォーキングにこだわらずに大会等の開催を検討していくことが必要。

既存の大会においても工夫できるものは、積極的に取り入れる必要がある。

(4) むなかたスポーツコミッション(仮称)の体制の確立

原文 国・九州レベルでのスポーツ大会、合宿、国内トップスポーツ試合等の誘致や市主催の広域スポーツ大会等の開催を支援するとともに、市内周遊等の観光PRを促進するため、グローバルアリーナを中心として、関係機関、団体で構成する宗像版のスポーツコミッションの体制づくりに取り組みます。

現状 プリンセス駅伝 in 宗像・福津が大きな目玉となり、スポーツ大会を通して市内周遊等の観光PRの促進につながっている。特に視聴者プレゼント企画を活用しての宗像市宿泊プランや食事券のプレゼントについては、観光PRにつながった。

グローバルアリーナについては、令和2年に(株)グローバルアリーナと「スポーツを通じた地域振興に関する協定」を締結し、グローバルアリーナ等と宗像市スポーツコミッション推進協議を開催(月1回実施)。むなかたキッズセブンラグビー大会の実施やラグビーチームの誘致などをおこなっている。

課題 スポーツコミッションの定義を明確にする必要がある。

7 スポーツ活動の場の確保

(1) 既存の3つの市営体育館施設の運営

原文 現在、既存の3つの市営体育館は毎週月曜日(月曜日が祝日の時は翌日)、お盆及び年末年始が休館日となっていますが、開館日時の見直しなど市民に利用しやすい施設運営の在り方について、調査研究を行います。

現状 利用しやすい施設運営の在り方については、調査研究は実施できていない。

近隣市町の現状も含めて、調査については検討するが、現状の運用において市民からの要望等は確認できていないため、見直しの必要性はないと判断している。

課題 備品の更新が適切にできていない。

(2) 学校開放施設の運営

原文 小・中学校の学校施設(主に体育館・運動場・武道場)の開放については、卓球場など、さらに開放が可能かどうかを調査研究します。

現状 宗像市スポーツ協会、教育政策課、学校管理課と連携しながら学校施設の開放事業を実施している。開放施設の拡大については、必要性についての調査等未実施であり、市民からの要望も確認できていないため大きな進展はない。

その他、学校開放を実施している市内小中学校にリモートロックを設置した。

課題 リモートロックの活用方法。利用料金の支払い方法（現状は、前納）。開放施設の備品の在り方について。利用のルール違反をおこなう団体への対応。

(3) 市内のスポーツ施設の活用

原文 宗像市スポーツサポートセンターにおいて、市内のスポーツ資産情報の集約を行うとともに、市民への貸し出しが可能であるか調査を行います。

現状 今後のスポーツサポートセンターの在り方をまとめる中で、スポーツ資産の活用についても整理し、市民が活用可能なスポーツ施設について調査研究を行うという段階であり、具体的な動きや政策に取り掛かれていない。

課題 スポーツ推進の基盤づくり

(4) 近隣市町のスポーツ施設の相互利用

原文 市と近隣市町間で協定を交わすなど、スポーツ観光での活用も視野に入れた「近隣市町のスポーツ施設の相互利用」を実施します。

現状 「福岡都市圏スポーツ施設広域利用案内」を宗像市スポーツサポートセンターのHPに掲載し、近隣市町のスポーツ施設情報を発信。市内スポーツ施設は空き状況の検索や予約申込をインターネット上で行うことができるようになっており、広域での利用がしやすい環境が整っている。有益な相互利用にまでは、至っていない。

課題 近隣市町の施設について、正確に把握できていない。施設の場所や設備、予約のルール等が、相互利用をしやすいものになっていない。

8 中核拠点となる施設の再構築と整備

(1) 体育館施設の整備

原文 既存の3つの市営体育館については、宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画に基づき、今後も市民が安全に利用できるよう、保全改修を実施します。

また、体育館は、いずれも築30年以上が経過しており、大規模改修を含めた今後の施設のあり方、スポーツを「観る」の視点の必要性、冷暖房設備設置の必要性など、将来の本市がどのような体育館施設を有すべきなのか、その方向性を示します。

現状 宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画、宗像市体育施設保全計画に基づき、必要な改修工事等をおこなっている。

玄海B&G海洋センターの照明LED化、外壁の改修工事、勤労者体育センターの照明LED化、トイレの洋式化等の改修工事、宗像市民体育館のカーテン、フローリング床の改修工事を実施。

令和5年度は、宗像市民体育館の火災報知器の更新を実施予定。

将来の体育施設の方向性に向けて、協議を進めている。

課題 公式な大会、大規模な大会、トップアスリートなどを誘致できる十分な広さの体育施設を確保できていない。

十分な駐車場を確保できていない。

(2) 屋外スポーツ関連施設の整備

原文 野球場を含めた屋外スポーツ関連施設については、宗像市公園施設長寿命化計画（平成26年3月策定）に沿って、今後も市民が安全に利用できるよう、必要な保全改修を行います。

また、屋外スポーツ関連施設には、野球場、テニスコート、弓道場などさまざまな施設があり、その整備については将来を見据え、施設ごとに拡充やその必要性和近隣市町との相互利用などを含め、その方向性を示すため、今後の屋外スポーツ関連施設の在り方について調査研究を行います。

現状 長寿命化計画に基づいて、必要な改修工事は実施できている。

宗像中央公園野球場改修工事（TOTO 助成活用）、運動広場野球場の近隣住居への飛球を防ぐため、レフトフェンスの嵩上げ等改修工事、ふれあいの森総合公園のスケートボード場の改修工事を実施した。

明天寺公園野球場のマットの張替工事を実施予定、ふれあいの森総合公園の改修工事を検討している。

課題 各屋外施設の駐車場の台数が十分に確保できていない。

定期的に必要なグラウンドの整備についても十分に行なえていない。公式な大会ができるような施設が確保できていない。

(3) 民間スポーツ施設の活用

原文 市が保有しないサッカー等の球技場や陸上トラック（400m）は市独自には整備せず、民間のスポーツ施設を市営スポーツ施設の代替施設として活用を図るとともに、その代替施設が今後も活用できるような仕組みについて調査研究を行います。

現状 民間スポーツ施設と連携し、東京 2020 オリンピック競技大会の事前合宿受入を実施。

市が保有しないサッカー場や陸上トラック、フットサル等の民間のスポーツ施設について、これらの民間のスポーツ施設を市営スポーツ施設の代替施設として活用に向けて調査研究している。

課題 場所も含めて民間の活用では、市民サービスに限界がある。

(4) 宗像ユリックスのスポーツ施設

原文 宗像ユリックスの保全改修計画に基づき市民の身近な施設として安全に利用できるよう、保全改修を行います。

現状 保全改修計画に基づき修繕などを実施している。

R5～R25 年を期間とした新しい保全計画及び長寿命化計画を R4 年度中に策定（現在作業中）テニスコート、屋外バスケットゴール（3on3）（令和4年度改修済）、パットゴルフ場については、整備計画に準じて R5 年度に改修する計画で調整中。

アクアドームについては、長寿命化が困難であるため、今後の存続を含めて協議を行っ

ていく予定。長寿命化計画に基づき、市民が安全に利用できるよう保全改修を行う。

課題